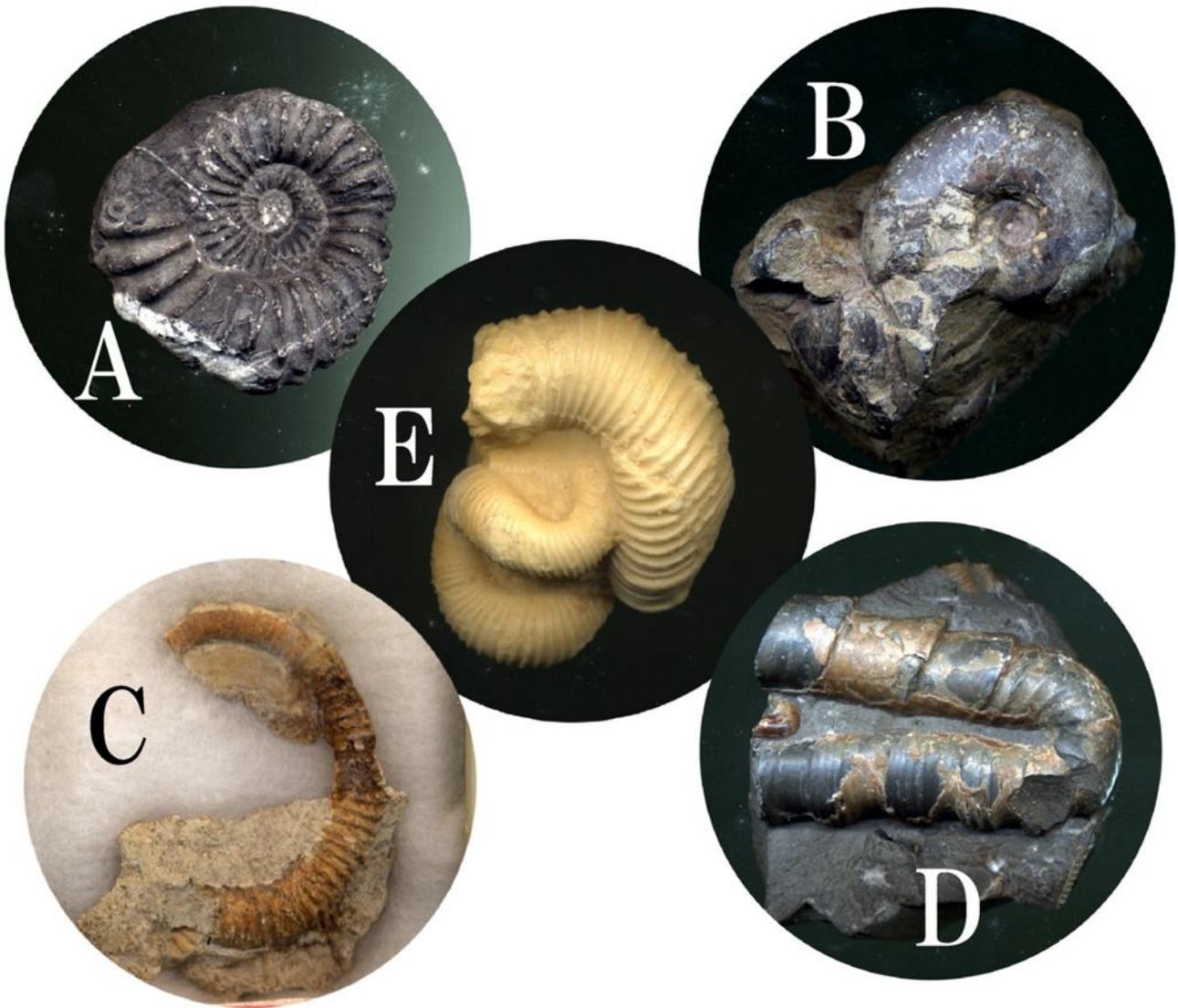


「異常巻きアンモナイト」

アンモナイト *Ammonoidea* は、古生代デボン紀から中生代白亜紀末期まで、地球上で大繁栄した、頭足類(イカの仲間)です。一つの種類ではなく、何千種類もの化石が知られる、大きな分類群です。特に白亜紀後期に続々と現れた、不思議な形のアンモナイトに、私は強く興味をひかれます。巻きがゆるいもの、途中から巻きの向きが反対になるもの、完全に絡み合った巻きのもの・・・それぞれが一つの種として繁殖していました。これらは「異常巻きアンモナイト」と呼ばれ、「進化の末期的症状」として誕生したとも、白亜紀の浅海にニッチ的に適応した結果とも言われています。特に「ニッポニテス」は、驚異です。当初1個体だけの「奇形」と思われていました。ところが、同じ形のものが次々と発見されて独立種と判明、世界中の化石学者を驚愕させました。異常巻きの出現と同時期に、アンモナイトには極端な巨大化も起きました。直径2m近いものも見つかっています。いずれも生活には支障があったはずで、その後間もなく、アンモナイトは地球上から完全に絶滅したのです。これらの化石は、北海道中部の中世層に多産し、私も積極的に収集しています。



AB ; 普通のアンモナイト / A ; ヒマラヤ産 B ; テトラゴニーテス・北海道幾春別産
C~E ; 異常巻きアンモナイト / C ; ハミテス・イギリス産 D ; ポリプチコセラス・
北海道三笠産 E ; ニッポニテス・北海道小平(おびら)産(元化石から型取自作の模型)

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)